

石狩地域森林ふれあい推進センター 中澤 真一郎 高尾 聡  
温井 和樹 坂田 康治

### 地域のもりから学ぶ森林づくり

平成22年から札幌市民の水瓶である奥定山溪国有林の水源の森において、自然環境モニタリングや自然環境教育などを通じた「地域のもりから学ぶ森林づくり」を市民やボランティア団体と連携、小学生・中学生に参加してもらい森林づくり活動を実施してきており、定山溪小学校・中学校の森林教室として様々な活動を行ってきました。

### 「ゆめの森」設置経過

奥定山溪国有林では、カミネッコンを使った植栽、シカ防護柵の設置、成長量調査、保護林観察、枝打ち作業などを行ってきました。

2020年学習指導要領の改正でアクティブラーニングが実施されること、中学校から奥定山溪まで移動に時間がかかることから近場での活動が希望され、一方でセンターとしても実践的な森林環境学習に取り組むことから両者の意見の一致を見て中学校から徒歩10分弱の国有林2441林班で活動を行うこととなりました。



### 「ゆめの森」での活動

平成25年に活動区域の観察、草刈りや効率的な作業のための生徒自ら測量を行い歩道の整備などを行い活動を開始しました。



「夢のもり」ではカミネッコンでの植栽、日時計設置、シイタケほだ木観察、巣箱設置、ブランコ1号(2017年設置)、ブランコ2号(2023年設置)、JICAの受入れ、ベースボールアカデミーによる植栽、シカ防護柵の設置をおこなってきています。



### 今後の展開

定山溪の小学校・中学校が令和7年度義務教育学校となり、今まで中学生主体の取り組みでしたがこれからは旧小学生(5・6年生)も「ゆめの森」で活動を行うこととなります。

先輩方が思い描いた「ゆめの森」(生き物いっぱいの森、昆虫たちの森、たくさんの生物がいる森、真のキノコ王国、鳥の住む森、動物たちとふれあえる森、切り株椅子・バードテーブルのある森、ブランコのある森)の実現に向け活動を進めていきます。

### 子供たちが描いた「ゆめの森」の将来像

